

令和 7 年(2025) 9 月 松子の夏

緑米（古代米）を育てている松子の田んぼに散歩に行きました。早朝の散歩道は、ジョギングをする人、犬と散歩する人など、にぎやかです。

洞庭湖に数本残る松の木の下を通ると、エビフライに似た松ぼっくりがたくさん落ちていました。上を見上げても姿はみえません。このエビフライのような食べ跡を残したのはニホンリス。もっと早起きすれば姿を見ることができたかもしれません。

松子の田んぼに刺してあった竹の上にカワセミの姿がありました。田んぼの中ではカルガモの夫婦が悠々と泳いでいます。近づくと、水際で餌をねらうアオサギが大きな翼をひるがえして飛び去りました。

松子川の中にはカワニナの姿があります。6 月、夜の松子をにぎわしてくれたゲンジボタルも、今は卵から幼虫の姿となり、川の中でカワニナを餌として育っています。

田んぼの間にあるアシ原では、例年はオオヨシキリがギョギョシ、ギョギョシと、かしましく鳴くのですが、今年はその姿が見られず、その代わりにぎやかに鳴いているのは外来種のガビチョウです。鳥カゴから抜け出して野外に定着したもので、八王子などでは 10 年以上前から聞かれましたが、松子に定着したのはほんの数年前のことです。

夕方、松子の散歩道は、レース編みのようなカラスウリの白い花で彩られていました。枕草子にも「夏は夜」と書かれています。早朝や夜の散歩では、ふだん見慣れた散歩道のいきいきとした姿を見ることができます。

<問合せ先>

増田 090-8045-0606 吉田 090-5317-9738

Facebook、Instagramで「一宮ネイチャークラブ」で検索してください。

会員募集中！

